

# 情報倫理教育のための教材開発および教材を活用した実践

情報倫理教育研究グループ代表 高橋参吉

## 目 次

- 1．はじめに
  - 2．従来までの研究内容と研究成果
  - 3．情報倫理教育の学習目標と学習教材
    - 3.1 情報倫理教育の学習目標
    - 3.2 学習目標に対応した学習教材
    - 3.3 ガイダンス用小冊子
  - 4．Web ベースの教材作成
    - 4.1 電子問題集作成支援システム
    - 4.2 問題の作成と実行
    - 4.3 学習者の登録と管理
  - 5．高等専門学校における情報倫理教育
    - 5.1 授業の概要
    - 5.2 授業実践の結果と評価
  - 6．高等学校における情報倫理教育
    - 6.1 普通科における実践
    - 6.2 総合学科における実践
  - 7．情報倫理と処罰に関するアンケート
  - 8．おわりに
- 参考資料
- 付録 1
- 付録 2

# 情報倫理教育のための教材開発および教材を活用した実践

情報倫理教育研究グループ代表 高橋参吉

## 要 約

インターネットの普及とともに、大学や高専などの高等教育機関では、様々な倫理的な問題が起これり、情報倫理を授業として行う大学や情報リテラシー教育の中で ID 授与のためのガイダンス教育の一部として情報倫理教育を行う大学が増えてきている。

一方、初等・中等教育では、2002,2003 年からの新学習指導要領の実施に向けて、「インターネット活用のための情報モラル指導事例集」が刊行されるなど、教員の指導書も刊行された。また、学会のシンポジウムでは、情報モラル教育に対する準備がある程度整えられたと報告された。2002 年以降、情報モラル教育が求められるが、多くの教育現場での実践は、まだまだ模索の段階である。

このような状況の中で、筆者らは、現行の学習指導要領が実施された 1994 年ごろから、高等学校段階における生徒・学生に対する情報モラルの意識調査など行う中で、情報倫理教育の必要性を感じていた。大阪府立高専電子情報工学科では、インターネットの「光と影」や個人情報の取り扱いなどにリテラシー教育の中でも取り上げてきたが、「技術」を教えれば教えるほど、「倫理」的な問題点も生まれ、情報倫理の教育の必要性を痛切に感じていた。そこで、1997 年に情報教育学研究会の中に情報倫理教育研究グループ（以下、筆者らのグループ）を発足させ、本格的な情報倫理教育の教育研究を始めた。

本稿では、まず、上月情報教育財団より第 6 回情報教育研究助成（情報教育推進のための「インターネット活用と情報倫理」教材の作成）を受けた研究成果を要約する。つぎに、従来の研究結果を踏まえ、情報倫理教育に対する学習目標や内容を検討し、9 つの基本学習目標を作成した。この学習目標に対応した情報倫理入門のテキストとして、情報社会で生きていくために必要な知識やマナーなど情報倫理に関連する事項を生活者の視点からとらえ、「インターネットの光と影-被害者・加害者にならないための情報倫理入門-」を作成した。

本稿では、この学習テキスト以外に、演習問題の解説、練習問題、練習問題の解説書およびガイダンス用小冊子を作成した。本稿では、これらの学習教材の概要について述べる。

また、Web ベースの電子問題集作成支援システムを利用して、情報倫理の Web 電子問題集を作成した。電子問題集作成支援システムは、容易に Web 上で問題作成が行えるシステム、すなわち、演習問題を Web 上で登録すれば、CGI によって自動的に問題集（電子問題集）が作成される支援システムである。これを利用した高等専門学校における実践について述べる。また、作成テキストを利用した高等学校における実践についても報告している。

さらに、情報倫理と処罰に対するアンケートを実施して、不正行為に対する教員と学生の回答結果に差があることを報告している。